

トピックス

保健師と事務職はベストパートナーになれるか

中村 譲治

公衆衛生

第69巻 第4号 別刷

2005年4月15日 発行

医学書院

保健師と事務職は ベストパートナーになれるか

中村 譲治

近年、保健師を取り巻く環境は大きく変化してきている。環境の変化に伴い、保健師の業務範囲も介護保険、福祉、子育て支援担当部署等に広がってきている。このような流れの中、保健師は行政職員としての政策立案能力、ならびに保健専門技術分野に関する高度な実践力を身につけることが要求されている。

一方、保健師と共に仕事を行っている事務職は、“保健師の思い”を反映させた地域の保健・福祉事業の具現化のために、法制と財政の専門家として業務を行っている。今後、保健師をはじめとした専門職と事務職とのパートナーシップがより重要になると考えられる。

今回、ある県の自治労の依頼で「保健師と事務職員が良好な関係を保ち、新しい時代に対応した仕事をするために相互に必要な能力は何か」、「そのために必要な条件や組織内の環境はどうあればよいのか」について調査した。本稿にてその結果の一部を報告する。

調査方法および対象

調査はまず質的調査(フォーカス・グループ・インタビュー：以下 FGI)により仮説を立てた。その後、仮説に基づいた質問紙を開発し、量的調査を実施した。表 1 に調査の流れを示す。

1. FGI 調査

事前に保健師と事務職員自身の仕事に対する考

表 1 調査全体の流れ

2003年 7月	FGI の企画書づくり
2003年 9月	FGI 実施
2003年 10月	FGI 分析
2003年 12月	インタビュー結果について関係者を集めグループワーク
2004年 1月	アンケート素案づくり
2004年 2月	アンケート プレ調査
2004年 2月	プレ調査の結果からアンケートを校正
2004年 3月	アンケート 本調査
2004年 7月	アンケートの集計・分析

え方、組織内の環境を知るために保健師、事務職を含む 8 名を対象に KJ 法を実施し、問題点を整理した。その結果を基に FGI の企画書を作成した。FGI の対象は A 県内の各自治体および県庁・保健所に勤務する経験 5 年前後の保健師 5 名、経験 15 年目前後の保健師 6 名の 2 グループ、および保健福祉関係の部署に 2~3 年の経験を有する事務職 6 名の 1 グループである。それぞれのインタビューは司会者 1 名、記録者 2 名、会場係 2 名の計 5 名で担当した。

インタビューは下記の 5 項目について半構造化した企画書に基づき実施した。

- ① 保健師として求められる行政職の能力とは
- ② 保健師と事務職の相互理解のために必要なことは何か
- ③ 保健師は相談相手としての事務職に何を求めているのか
- ④ 職場内の保健師に対する評価と保健事業に

なかむら じょうじ：NPO 法人ウェルビーイング

連絡先：☎ 810-0041 福岡県福岡市中央区大名 1-15-24 Well-Being BLDG 2 F

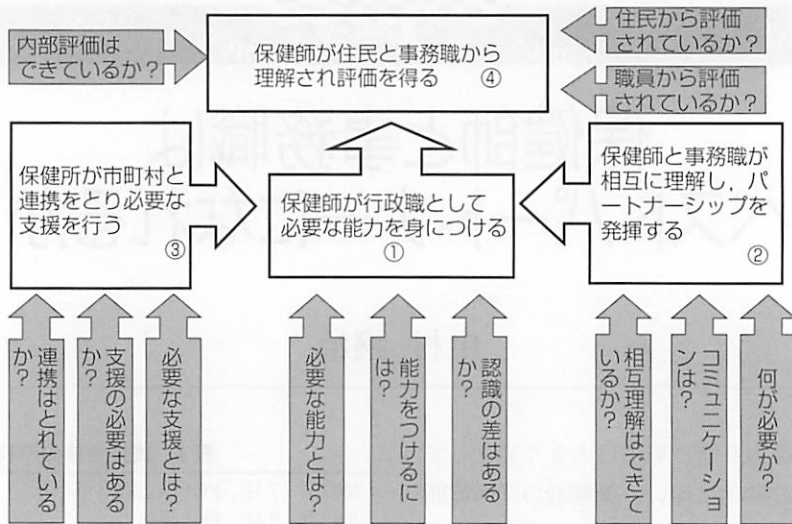


図 FGI(フォーカス・グループ・インタビュー)の結果から得られた質問紙の構造

に対する評価のあり方とは

⑤ 市町村と県との連携のあり方とは

2名の記録者が入力したものを録音テープで確認し追加修正を行い、記述録を作成した。分析は以下の手順で行った。インタビューを担当したメンバー全員で記述録を読み、各々が選択した文章を採用するかどうか、全員の同意を得ながら切片化を行った。切片化された発言を前述の5項目を考慮しながら類似したものをカテゴリーとしてまとめ、カテゴリーを代表するタイトルを付けた。必要に応じサブタイトルも設定した。

2. 質問紙調査について

●質問紙の構造

インタビューの結果、経験5年前後の保健師：112項目、経験15年前後の保健師：116項目、事務職：151項目の情報が得られた。構造化した結果を図に示す。

構造化の結果を基に質問紙を作成した。質問項目数はフェイスシートの7項目を含め、保健師用35問、事務職用33問となった。以下に保健師用の質問項目の構成を示す。

① {保健師が行政職として必要な能力を身につける} に関して 8項目

② {保健師と事務職が相互に理解し、パートナーシップを発揮する} に関して 13項目

③ {保健所が市町村と連携をとり必要な支援を行う} に関して 3項目

④ {保健師が住民や事務職から理解され評価を得る} に関して 4項目

●調査対象

対象はA県下の2政令都市を除く94市町村の自治労に加盟している保健師と、保健師と仕事をした経験のある事務職である。配布および回収は平成14年の国保連合会の名簿から自治労に加盟している保健師を抽出し、単組を通じて、個人宛に配布・回収した。事務職については「保健師と一緒に仕事をしたことのある事務職」という条件を付記して、保健師のアンケートに同封し、配布・回収した。

3. アンケート結果

保健師は375名中212人から回答があった。事務職は母集団の大きさは不明であるが、37人から回答があった。以下結果の一部を報告する。

1) 保健師が行政職として必要な能力を身につける

① 保健師にとって、一番必要だと思う能力：事務職が1位に挙げていた「一般事務能力」に対して、保健師がその必要性を感じているものは少なかった(事務職：36.1%，保健師：7.6%)。保健師は、近年、他分野との連携が求められる場面

表2 (保健師は)事務職からどのように思われていると感じているか(事務職はどう思っているか)

No.	カテゴリー名	保健師	事務職
1	便利屋	19.5	2.7
2	現場主義の人	25.7	21.6
3	事務をしない人	15.7	0.0
4	看護師の仕事ができる人	24.8	10.8
5	一人で仕事を抱え込む	11.0	10.8
6	仕事を掘り起こす	9.5	5.4
7	法令などに縛られない	4.8	2.7
8	忙しい	38.6	35.1
9	頼りになる	9.0	43.2
10	何をしているかよくわからない	49.5	10.8
11	その他	17.6	13.5
	有効回答	210	37

が多いためか、「調整・交渉能力」(34.3%)の必要性を感じているものが多かった。

②保健師にとって、一般事務で一番必要だと思う能力：保健師、事務職ともに上位に挙げたものは「行政評価の能力」、「事業の企画能力」、「プレゼン能力」であった。

③保健師の事務能力を高めるために一番必要だと思う知識は何か：「事業の法的根拠」が共に1位に挙げられた(保健師：63.8%，事務職：47.2%)。事務職では「役所(役場)の仕組み」(25.0%)が2位であったが、保健師では3位だった(9.0%)。保健師で2位に挙げられたのは「予算(歳入・歳出)の見方」(11.4%)であった。

④保健師が事務能力を身につけるために必要なこと：事務職で1位に選ばれたのは「他課への異動」(47.2%)で、圧倒的に割合が高かった。2位は「研修の機会」(27.8%)、3位は「事務マニュアル」(25.0%)であった。一方、保健師の1位は「研修の機会」(43.1%)、2位は「相談相手」(41.2%)、3位は「他課への異動」(39.8%)であった。事務職では「相談相手」の割合(5.6%)は低かった。

2) 保健師と事務職が相互に理解し、パートナーシップを発揮する

①保健師と課内や係内の事務職の役割分担はできていると思っているか？

課内や係内の事務の役割分担については、事務

表3 保健師と仕事をする上で、やりにくいと感じたこと(複数回答)

No.	カテゴリー名	事務職
1	事務をしない	21.2
2	一人で仕事を抱え込む	18.2
3	法令等を考えない	12.1
4	会議が下手	9.1
5	行政的に判断せずに、住民のニーズを優先する	21.2
6	業務が忙しそうで近づけない	12.1
7	保健師は事務職に対して偏見を持っている(事務屋扱い)	21.2
8	保健師は世話が掛かる	12.1
9	その他	33.3
	有効回答	33

職の86.1%が「できている」「どちらかといえばできている」と答えているのに対し、保健師は70.1%が「できている」「どちらかといえばできている」と答えていた。

②保健師と課内や係内の事務職の相互理解はできていると思っているか？

「保健師と課内や係内の事務職の役割分担」の設問と同様の傾向を示しており、事務職のほうが保健師に比べて相互理解ができていると答えていた。

③(保健師は)事務職からどのように思われていると感じているか？(事務職はどう思っているか)

保健師自身と事務職の感じ方に大きな差があった。差の大きなものを挙げると、「何をしているかよくわからない」、「頼りになる」、「便利屋」、「事務をしない人」であり、保健師と事務職との意識の差が顕著であった。結果を表2に示す。

④保健師と事務職がより良い関係を築くために必要なことは？

保健師、事務職共に1位は「保健師がいろいろな課を体験する」(保健師：51.7%，事務職：51.4%)であった。保健師と事務職のよりよい関係を築くためには、「空間的な距離を近くすることが必要であると保健師の44.5%，事務職の20.0%が答えていた。保健師は本庁舎から離れた保健センター等に配属されることが多く、事務職

よりも空間的な距離を気にしていることが窺えた。

⑤ 事務職が保健師と仕事をする上で、やりにくいと感じたこと。

事務職が保健師と仕事をする上でやりにくいと感じていることとしては、事務をしない、行政的に判断しない、事務職に対して偏見を持っているということであった。結果を表3に示す。

⑥ 事務職との相互理解のために人事異動は必要か？

⑦ 課長とのコミュニケーションは取れているか？

⑧ 課長とのコミュニケーションが取れていない理由は？

事務職の83.4%が、相互理解のために保健師の人事異動は必要だと回答していた。保健師は課長とのコミュニケーションに関しては現状に満足していない傾向があることがわかった。課長とのコミュニケーションが取れていない理由として、仕事が忙しいため話す時間がないことが挙げられた。

⑨ 保健師の仕事について他課職員に理解されていると思うか？

「理解されている」と答えた保健師の割合は0.5%であり、「ある程度、理解されている」を加えても33.7%であったのに対し、事務職では、「理解されている」と答えた人は18.9%、「ある程度、理解されている」を加えると51.3%であった。事務職に比べ保健師はかなり現状に満足していない傾向があった。

3) 保健所が市町村と連携をとり必要な支援を行う

この問いは市町村の保健師のみに聞いた質問である。保健所との連携に関して「とれている」(47.2%)、「とれていない」(52.8%)と回答は二分された。保健所との連携は必要ないと回答した市町村保健師が14%もいる一方で、保健所に対し何らかのことを期待しているものが98%近く

いた。各種の保健業務が市町村に移管される中で、保健所が専門知識を含む技術支援や広域的な事業の調整などの期待に十分応え切っていない現状が窺える。

4) 住民と事務職から理解され評価を得る

① 保健師の専門性を事務職や住民に説明できていると思うか？

「十分できている」の回答に(保健師：1.5%、事務職：16.2%)、大きな差があった。「まあまあできている」を加えても(保健師：37.4%、事務職：62.1%)同様に大きな差が認められた。

② 保健師の専門性は事務職から評価されていると思うか？

③ 保健師の専門性は住民から評価されていると思うか？

「十分評価されている」の回答に(保健師：1.9%、事務職：59.5%)大きな差があった。「まあまあ評価されている」を加えても(保健師：50.5%、事務職：83.8%)同様の傾向であった。住民からの評価でも、「十分評価されている」についても(保健師：2.9%、事務職：20.6%)、両者に大きな差があった。事務職に比べ保健師は、他者からの評価について、かなり悲観的な傾向が認められた。

まとめ

事務職と保健師の意識に大きな差があることが明確になる結果となった。具体的には「課長とのコミュニケーション」、「専門性を事務職や住民に十分説明できているか」、「事務職から評価されているか」、「住民から評価されているか」について、保健師は悲観的な見方をしている傾向が読み取れた。

今回の報告は一県だけを対象とした調査結果であり、地域性やサンプリングに対する配慮が十分に行われているとは言い難い。今後、十分なサンプル数で広域的な調査をする必要があると思われる。